

氏名： 依馬 綾子

班名： [A01] メゾヒエラルキー造形 灰野グループ

所属・学年： 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 博士前期課程1年

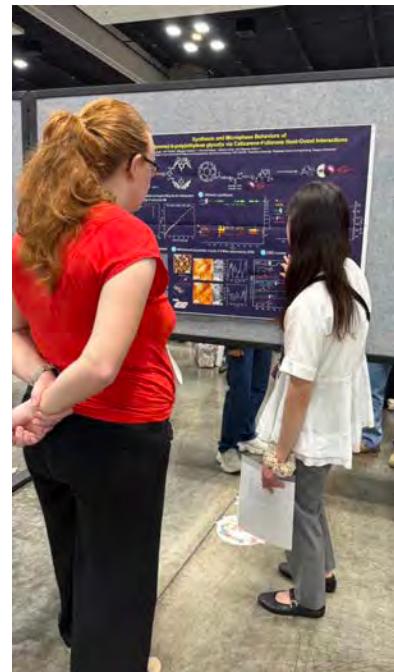
この度、ハワイ・ホノルルにて開催された Pacifichem 2025 に参加し、ポスター発表を行う機会をいただきました。本留学体験記では、学会発表を含めたハワイ滞在中の出来事について報告させていただきます。

まず、空港に到着すると大雨が降っており、ハワイならではの雨季を感じることができました。学会期間中はかなりの割合で雨が降っており、残念ながら綺麗な空を見る機会はなかなかありませんでした。私のポスター発表は学会2日目の夜でした。ポスター発表では、何を目的に何を行ったのかを分かりやすく話すことを目標に発表しました。英語で話すということもあり、初めはかなり緊張していましたが、覚えた原稿をそのまま話さなければいけないという認識を取り払うと、スムーズに話すことができるようになりました。説明しづらい部分やうっかり忘れてしまった言葉も、諦めずに言い換えたりなどして話し続けることを意識しました。様々な国、異なる分野の方々に聞いていただき、いただいたアドバイスやご意見を今後の研究にも活かしていきたいと思います。また、学会期間中は先生方の口頭発表も聴講していました。自分のテーマと関連した内容や、分野外の発表も聴講し、新しい視点を得ることができました。さらに、発表するまでの言い回しやストーリー展開の仕方、スライドの作り方など、参考になることが多く、非常に勉強になりました。

学会参加の合間にはハワイの観光も楽しみました。ダイヤモンドヘッドに登ったのですが、山頂からの景色はとても綺麗で圧倒されました。久しぶりの運動でかなりしんどかったのですが、綺麗な景色で疲れも吹き飛びました。クリスマスシーズンということもあり、街中にはクリスマスツリーやオーナメントがたくさんありました。寒くないクリスマスを体験することができ新鮮な気持ちでした。

ハワイ・ホノルルでの学会参加は、私個人としては非常に感慨深い滞在でした。この5年に1度という機会に巡り会えたこと、そして自分自身がこの機会を通して少し成長できたことへの喜びを感じる滞在にもなりました。海外に行くと、英語やその現地の言葉を使って交流すること、異なる文化に触れることへの楽しさを実感します。この「楽しい」という感情を糧に、今後も語学力の向上を目指して勉強したいと感じました。

本学会への参加は「メゾヒエラルキーの物質科学」のご支援のもと実現いたしました。このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



ポスター SESSION の様子



ダイヤモンドヘッド山頂から



氏名： 稲垣 和真  
 班名： [A01] メゾヒエラルキー造形 横田グループ  
 所属・学年： 名古屋大学大学院 工学研究科 博士前期課程2年

このたび、「メゾヒエラルキーの物質科学」のご支援のもと、国際学会“Pacifichem2025”へ参加しました。この経験は、私にとって研究者としての自信に加え、研究がつくるつながりの重要性を再認識するものでした。

その契機となったのが、ポスター発表とは別に行われた" Student Research Competition"でした。このコンペティションは A4一枚程度のアブストラクトでファイナリストを選出し、そこから3分の動画 "Flash Talk"によって各部門の Winner を選ぶものです。会期前に、私は500名近い参加者の中から24名のファイナリストに選出されたことを知りました。受賞経験のなかった私にとってはこれだけでもたいへんな驚きでしたが、とにかく大急ぎで動画を作り、期待半分にハワイへと向かいました。



ファイナリスト選出を祝う食事会にて，



会場1F、エントランスにて。

会場に着くと、至る所にモニターが設置され、ファイナリスト24名の動画が順番に流れていきました。初日にメイン会場へのエスカレーターを上ると、正面のモニターに映る自分と早速対面しました。これには面喰らいましたが、選考の結果、幸運にも私は Biological 部門の Winner に選出していただきました。この経験は自身の研究内容の意義、そしてプレゼンテーション能力における大きな自信になりました。

ですが私が一層驚いたのは、この選出がきっかけで学生同士の新しいつながりができたことです。Winner 発表の翌日、私の受賞を知った多くの方がポスターを訪れてくださいました。さらにそこで知り合った方に誘われた夕食では、さらに予期せぬ交友の輪を広げることができ、何にもまして楽しかったことを覚えています。優れた研究成果は、新たな繋がりをつくる媒介にもなり得るという学びを得られたことが、何より大きな収穫でした。

また、学会の外でも多くの貴重な経験を得られました。特にすばらしかったのは、やはりワイキキビーチでした。会期中のホノルルはあいにくの雨模様でしたが、私が浅沼教授そして同期の杉山君と一緒にビーチへ向かった二日目の午後は、奇跡的に晴れ間が差し込みました。「ハワイまで来て海に入らない手はない」という教授の熱い言葉に感化され、久々に海に入りました。ひとしきり泳いだ後、見渡す限りの海と空に圧倒され、世界は広い、などと素直に開放的な気分に浸ったことを覚えています。

本学会への参加は「メゾヒエラルキーの物質科学」のご支援のもと実現いたしました。このような貴重な機会を与えてくださった関係者の方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



二日目、ワイキキビーチにて。



**氏名：** 吉田 英莉花  
**班名：** [A02] メゾヒエラルキー光機能科学 増尾グループ  
**所属・学年：** 関西学院大学大学院 理工学研究科 博士前期課程1年

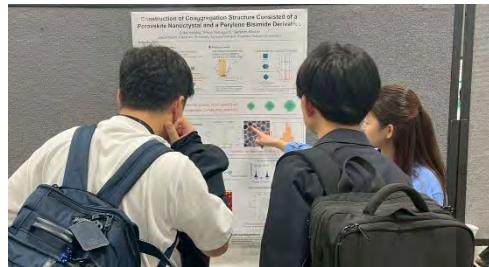
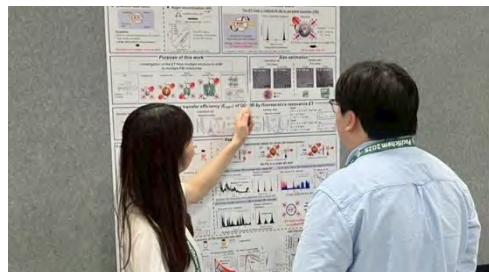
このたび、学術変革領域研究（A）「メゾヒエラルキーの物質科学」によるご支援のもと、ハワイにて開催された Pacifichem2025 に参加し、ポスター発表を行う機会をいただきました。以下、私が経験した学会での発表や現地での経験について報告いたします。

ポスター発表はハワイ・コンベンション・センターで行われました。これまで参加したどの学会よりも規模が大きく、広いホールには世界各国の研究者が集まり、会場全体が熱気に包まれていました。会場に足を踏み入れた瞬間、国際会議ならではのスケールの大きさに圧倒されながらも、ここで発表できることへの期待が高まりました。発表では多くの研究者が足を止めてくださり、活発な意見交換を行うことができました。英語での発表は緊張しましたが、研究内容を自分の言葉で伝え、質疑にも対応できることで大きな達成感を得ました。また、研究の話だけでなく、文化や生活の違いといった話題でも交流することができ、国際学会に参加したからこそ得られる貴重な経験となりました。

発表以外にも、光化学分野に関する講演を多数聴講し、光反応機構やエネルギー移動過程に関する最新の研究成果に触ることで、基礎的理解を深めるとともに、研究分野全体の動向を把握することができました。これらの講演内容は自身の研究とも関連しており、今後の研究方針や実験設計を検討するうえで重要な示唆を得ました。さらに、他分野の発表にも触れたことで研究の広がりを実感し、多様な研究者が同じ課題を多角的に探究している姿勢に強く刺激を受け、自身の研究をより広い視野で考えるきっかけとなりました。学会全体を通して、研究の刺激と学びに満ちた非常に充実した時間となりました。

発表の翌朝には、朝日を見るためにダイヤモンドヘッドへ登りました。決して高い山ではありませんが、道のりは思いのほか険しく、頂上にたどり着いたときには大きな達成感がありました。天候には恵まれなかったものの、雲の合間から差し込む朝日の光はとても美しく、普段はなかなか見られない光景に心を打たれました。

本学会参加は、「メゾヒエラルキーの物質科学」のご支援のもと実現いたしました。このような機会を与えてくださった増尾貞弘教授や関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



ポスター発表の様子



ダイヤモンドヘッドから見た朝日



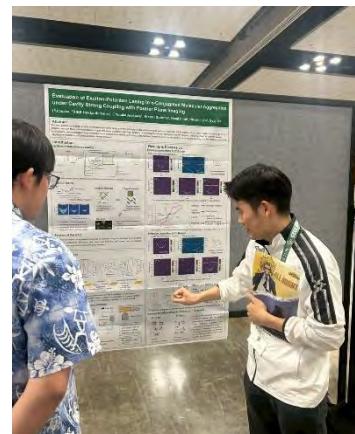
氏名： 荒川 由多可

班名： [A03] メゾ強結合 五月女グループ

所属・学年： 大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻 博士前期課程1年

このたび、ハワイで開催された国際会議 Pacifichem 2025 に参加し、二日目にポスター発表を行いました。海外渡航経験の少ない私にとって、国際学会への参加、英語での発表は大きなハードルを感じておりましたが、実際に現地での発表・交流を通して、国際学会ならではの醍醐味や、研究交流をより実りあるものにする参加の仕方を学ぶことができました。

私は現在、共振器強結合を利用したポラリトンレーザーの研究に取り組んでいます。分子の励起状態と共振器の光子モードが相互作用することで形成される励起子ポラリトンを活用することで、低しきい値でのレーザー発振が可能となり、こうしたレージング挙動と分子集合状態の相関を明らかにすることが目的です。ポラリトンという概念は初見ではなかなかイメージしにくいのではないかという不安がありました。入念に発表練習をした甲斐もあり発表を始めると多くの来訪者が足を止め、研究内容に関心を示してくれました。また、他の参加者の発表では、内容を理解するだけでなく積極的に質問を重ねることで、研究の背景や課題を深く知ることができました。文化の違いに対する不安もありましたが、研究という共通の話題を通じて自然に議論が生まれ、異なる視点に触れることで自身の研究を見直す良い機会となりました。



ポスター発表中の様子

学会後の時間には、現地のビーチを散策したり、近隣のスーパーマーケットを訪ねてみたりと、ハワイ滞在を楽しみました。現地の空気感や日常の雰囲気に触れることで、学術交流に留まらない広がりを感じました。買い物の場面ではなじみのないチップ文化や追加でおまけがもらえる場面に遭遇し戸惑つてしまったりもしましたが、こうした経験も異文化理解や柔軟なコミュニケーション能力の向上に繋がるものと捉えています。

今回の参加を通じて、国際学会は発表する場としてだけでなく、学び合い・ネットワークを築く場であることを強く認識しました。英語でのコミュニケーションは学会会場内外でまだ力不足を感じる場面も多く、研究活動と並行して力をつけていきたいと感じました。今後は今回得た反省点も踏まえ、英語での説明力や質疑応答の準備を強化し、他分野の研究者との交流の可能性を探っていきたいです。

また、私にとってはこれまであまり海外に关心を持ってこなかった自分が、また行ってみたいと思えるようになったことも大きな収穫です。今後も国際舞台での発表や交流を通じて、自身の研究をより広い視野で発展させていきたいと思います。最後になりますが、今回の海外渡航に際し、学術変革領域研究（A）「メゾヒエラルキーの物質科学」よりご支援を頂きましたことに感謝申し上げます。



ロコモコとカハナモク・ビーチ



氏名： 棚田 玲華

班名： [B01] メゾヒエラルキー理論 満田グループ

所属・学年： 大坂公立大学大学院 理学研究科化学専攻 博士前期課程1年

ハワイ・ホノルルにて開催された国際学会 Pacifichem 2025 に、2025年12月15日から20日まで参加し、ポスター発表を行う機会をいただきました。本体験記では、主にポスター発表の内容および現地での議論を通じて得られた経験について報告します。

会期中の12月19日には、分子動力学シミュレーションと自由エネルギー反応ネットワーク法を用いた自身の研究についてポスター発表を行いました。本研究では、アミド鎖の四次元自由エネルギー地形を探索しました。得られた多次元自由エネルギー地形に基づいて自由エネルギー反応経路ネットワークを構築し、準安定点間を結ぶ複数の遷移経路を体系的に整理するとともに、反応速度の大きい経路を縮約することで、安定点周辺における構造変化に着目した解析を進めました。

ポスター発表では、多次元自由エネルギー地形の探索手法や自由エネルギー反応ネットワーク法に関する関心を示してくださる参加者が多く、他の計算手法との比較や、異なる分子系へ適用した場合に得られる知見について議論することができました。ポスターを写真に撮りたいと言ってくださる方や、参考文献を詳しく確認される方もおり、本研究手法が一定の関心を集めていることを実感しました。自身の研究を国際的な場で発信し、直接意見交換を行えたことは、非常に貴重な経験となりました。

一方で、ポスター発表における英語での説明およびそれに対する質疑応答については、自身の課題も明確になりました。事前に準備した原稿をもとに説明を行いましたが、説明に集中するあまり、相手の理解度に応じて柔軟に言い換えや補足説明を行うことが難しいと感じる場面がありました。また、質問に含まれる専門用語を即座に理解できない場合もあり、その際にはポスター中の図表を指し示しながら対応しました。参加者が表現を言い換えて丁寧に説明してくださる場面も多く、国際学会ならではの建設的な雰囲気を感じると同時に、自身のリスニング力および即興的な説明力の向上が今後の課題であると強く認識しました。



今回の参加を通じて、最新の研究動向を把握できただけでなく、自身の研究を国際的な視点から見直す貴重な機会を得ることができました。研究内容そのものに加え、発表の進め方や議論の進行方法について多くの学びがありました。ここで得られた知見や反省点を今後の研究活動に活かし、研究の深化と国際的な発信力の向上に努めていきたいと考えています。

なお、本学会への参加は「メゾヒエラルキーの物質科学」の支援のもと実現しました。このような貴重な機会を与えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。